



2012年2月1日

各位

東京都品川区南大井六丁目25番3号
日本通信株式会社
代表取締役社長 三田 聖二
(コード番号: 9424)
問合せ先 代表取締役専務 CFO 福田 尚久
電話 03-5767-9100 (代表)

特別利益の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

日本通信株式会社(以下、「当社」という)は、本日、会社分割により設立した子会社株式の一部(60%)を丸紅株式会社に譲渡し、子会社株式売却益として446百万円の特別利益を計上しました。

これに伴い、2011年8月2日に公表した2012年3月期(2011年4月1日~2012年3月31日)の連結業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 2012年3月期(2011年4月1日~2012年3月31日)の連結業績予想数値の修正

(単位:百万円、1株当たり当期純利益のみ円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	4,056	368	336	478	356.80
今回修正数値(B)	4,006	368	336	924	689.20
増減額(B-A)	▲50	—	—	446	
増減率(%)	▲1.2	—	—	93.3	
(ご参考)前期実績 (2011年3月期)	3,642	▲74	▲273	▲359	▲268.94

2. 特別利益の内容及び業績予想の修正理由

当社は、本日、法人直販データ通信サービス事業(以下、「法人直販事業」といいます)を会社分割し、新設分割した子会社株式の60%を丸紅株式会社に譲渡することで、丸紅株式会社と当社との合弁会社である丸紅無線通信株式会社(以下、「丸紅無線通信」といいます)を誕生させました。当社はこの取引により、子会社株式売却益から必要経費を控除した446百万円を特別利益として計上しましたので、これに伴い、連結業績予想を修正するものです。

売上高

本日の上記取引により、当社は、2012年3月期の法人直販事業の売上のうち2012年2月及び3月の2ヶ月分を失います。一方、同期間、当社はMVNEとして、MVNOである丸紅無線通信をサポ

ートするサービスを提供します。この両者、すなわち、法人直販事業の売上減と MVNE サービスによる売上増を差し引きすると、当期の売上への影響は 50 百万円のマイナスと見込んでいます。なお、丸紅無線通信の成長に伴い、当社の売上への影響は、数ヶ月程度の期間で、マイナスからプラスへ転じてくる見込みです。

そのため、売上高については、従来の業績予想数値 4,056 百万円に、上記の影響である 50 百万円のマイナスを組み入れ、4,006 百万円としています。

営業利益

当社のネットワーク原価は、本日の取引の前後で大きく変わることはありません。従って、50 百万円の売上減少がそのまま営業利益に影響し、本日の取引により、営業利益は 50 百万円のマイナス影響を受けます。

しかしながら、収益性の高い SIM 事業が順調に推移していることから、このマイナス影響は吸収可能と想定し、営業利益については、従来の業績予想数値のまま据え置いています。

経常利益

経常利益においても、営業利益と同様、本日の取引により、50 百万円のマイナス影響を受けます。しかしながら、収益性の高い SIM 事業が順調に推移していることから、このマイナス影響は吸収可能と想定し、経常利益については、従来の業績予想数値のまま据え置いています。

当期純利益

当社は本日、子会社の株式 60%を、492 百万円で譲渡し、本件に関するフィナンシャルアドバイザーに対する報酬及び弁護士費用等の必要経費を差し引き、446 百万円を特別利益として計上しました。

当期純利益について、従来の業績予想数値は 478 百万円でしたが、本日計上した特別利益を加算し、924 百万円に上方修正したものです。

以上

■日本通信について

1996 年 5 月 24 日、日本通信は新たなモバイルサービス事業のあり方を提示するため生まれました。それから 13 年の歳月を経て、2009 年 3 月、NTT ドコモとの相互接続により「MSO 事業モデル」を完成させ、それから 2 年弱でこのモデルの収益性を実証しました。ネットワークを効率的に運用する当社独自の先端技術やリアルタイムの認証技術などによって、ユニークな通信サービスをつくりだし、自社 b-mobile ブランド製品をお客様に提供する MVNO 事業、及びメーカーやインテグレータ他のパートナー企業に提供する MVNE 事業を展開しています。

MSO=Mobile Service Operator